

- 1 住みよいまちを力を合わせつくりましょう
- 1 きれいな緑と水と空を守りましょう
- 1 働くよるこびと心のふれあいを大切にしましょう
- 1 すぐれた教育と文化を育てましょう
- 1 明るいくらしと福祉のまちをぎざぎざしましょう

●向日市役所(〒617-8665 京都府向日市寺戸町中野20) ●編集 秘書広報課 ●電話 075(931)1111 ●http://www.city.muko.kyoto.jp/

年別火災・救急等発生件数

	平成10年	平成11年	平成12年
火災	3	6	2
消防事故	32	40	38
救急	1,296	1,326	1,420
救助	16	11	13

平成12年中の火災、消防事故等の件数がまとまりました。安心・安全のまちはだれもの願いであり、健康なまちの前提です。消防本部は、まさに24時間市民の生命と財産を守ります。

消防本部では、火災や事故を未然に防ぐとともに、一人暮らしの高齢者とのあんしんホットラインの設置や救急救命士の配置などの取り組みを続けていきます。

平成12年火災等発生件数

安心・安全 低出火都市を堅持

火災

市内で発生した火災は建物火災2件で、一昨年の火災件数に比べ4件の減少となりました。

本市の火災件数からの出火率(人口1万人当たりの火災件数)は0.4で、全国の出火率の約10分の1であり、全国でもトップクラスの低出火都市であると言えます。

消防事故

消防事故(火災に至らなかった小火)は38件で、一昨年の40件と比べ2件の減少となりました。

内訳は、無損事故19件、漏えい流出事故14件、燃焼放置4件でした。その原因が放火、いたずら、火遊びなど、人の故意によって引き起こされたと思われる事故が9件(24%)となっています。

今後ともさらに放火されない環境づくりを消防団、女性防火推進員と共に、市民に呼び掛けていきます。

救急

昨年一年間の救急事故発生件数は、1,420件で、一昨年に比べ94件の増加となり、平成7年から毎年最高件数を更新しています。

その内訳は、急病793件、交通330件、一般負傷150件で、全出動件数の90%を占め、一日平均の救急事故発生件数は3.9件となりました。搬送人員は1,405人で、市民の38人に一人が救急隊によって病院へ運ばれたこととなります。

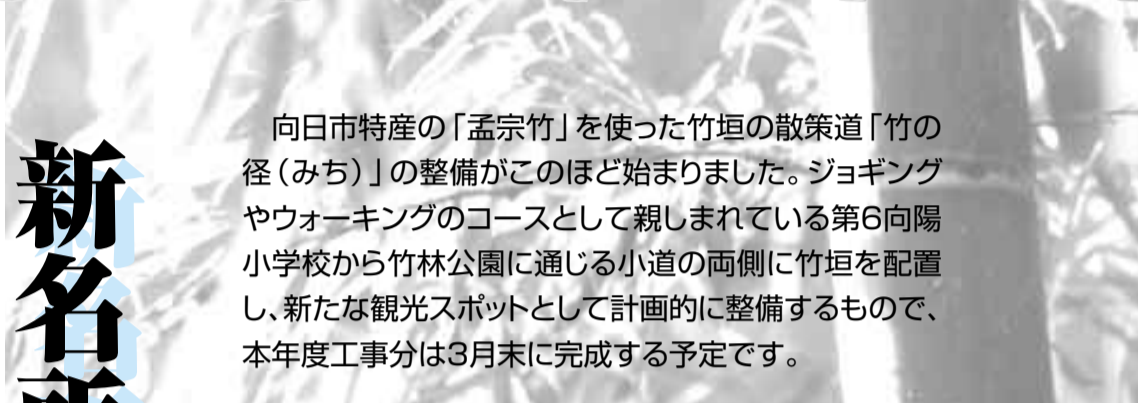
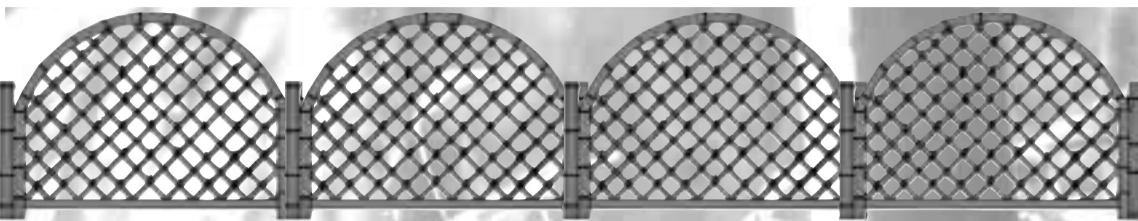
年代別に見ると、70歳以上が最も多く338人(24.0%)、続いて20歳代の206人、60歳代194人、50歳代159人、30歳代の169人の順になっています。

今後も、人口の高齢化に伴い、救急件数が年々増加するものと予想され、重篤傷病者の救命効果を高めるため、救急講習会を開催し心肺蘇生法等の応急手当の普及を積極的に進めていきたいと考えています。

救助

救助出動件数は、13件で一昨年に比べ、2件の増加となりました。

その内訳は、交通事故に起因するものが7件、建物5件、その他1件であり、延べ9人を救助しました。



向日市特産の「孟宗竹」を使った竹垣の散策道「竹の径(みち)」の整備がこのほど始まりました。ジョギングやウォーキングのコースとして親しまれている第6向陽小学校から竹林公園に通じる小道の両側に竹垣を配置し、新たな観光スポットとして計画的に整備するもので、本年度工事分は3月末に完成する予定です。

新名所「竹の径」整備へ

「竹の径」整備事業は、西ノ岡丘陵に残された美しい竹林の中を抜ける農道約800メートルの両側に竹垣を整備するものです。1月中旬から、平成12年度計画分として寺戸大塚古墳周辺約250メートルの竹垣づくりが、地元の竹産業振興協議会のメンバーの人たちの手で始まりました。

竹垣には、京都の嵯峨野にある散策道に設置されているのと



寺戸大塚古墳をデザインした「古墳垣」を設置

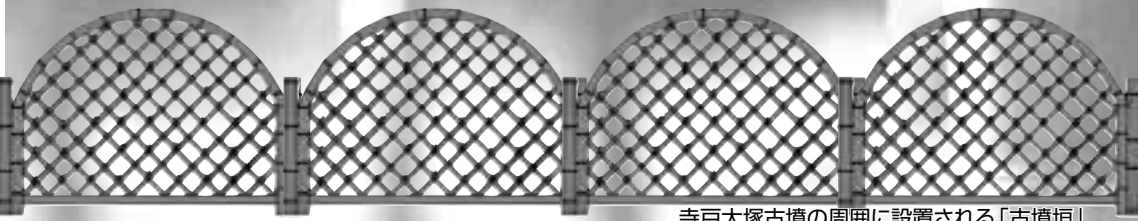
古墳の周囲約50メートルに設置する予定です。

寺戸大塚古墳は、古墳時代初期(4世紀前半)の前方後円墳で、前方部と後円部に堅穴式石室があり、中国製三角縁神獣鏡(さんかくぶちしんじゅうきょう)などの副葬品をもつことで、全国的にも有名な古墳です。

市では、新たな観光の名所「竹の径」付近に、将来的には竹製品などのふるさと産品を扱うアンテナショップを開設するなど、西ノ岡丘陵の緑を活かした観光誘致事業を展開していきます。

お問い合わせ 産業振興課 (内線239)又は、向日市商工会 ☎92112732へ

「竹の径」位置図



寺戸大塚古墳の周囲に設置される「古墳垣」